



平成28年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成27年8月13日

上場会社名 株式会社リボミック 上場取引所 東
 コード番号 4591 URL http://www.ribomic.com/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中村 義一
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理部長 (氏名) 宮崎 正是 TEL 03 (3440) 3303
 四半期報告書提出予定日 平成27年8月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第1四半期の業績（平成27年4月1日～平成27年6月30日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	事業収益		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第1四半期	39	△87.8	△107	—	△100	—	△100	—
27年3月期第1四半期	321	—	204	—	208	—	196	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第1四半期	△7.83	—
27年3月期第1四半期	18.31	—

- (注) 1. 平成26年6月28日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っておりますが、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額を算定しております。
 2. 当第1四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。
 3. 前第1四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在するものの、当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できないため記載しておりません。
 4. 当社は、前事業年度の第1四半期累計期間より業績開示を行っているため、平成27年3月期第1四半期累計期間の前年同四半期との比較は行っておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第1四半期	3,311	3,191	96.4
27年3月期	3,419	3,262	95.4

(参考) 自己資本 28年3月期第1四半期 3,191百万円 27年3月期 3,262百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
28年3月期	—	—	—	—	—
28年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の業績予想（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	事業収益		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	199	△58.5	△439	—	△406	—	△407	—	△31.77
	～	～	～	～	～	～	～	～	～
	849	76.9	200	—	234	—	216	—	16.86

- (注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無
 2. 当社は年次で業績を管理しているため、通期業績予想のみ開示しております。
 3. レンジ形式により開示している理由、詳細は、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年3月期1Q	12,910,100株	27年3月期	12,821,800株
② 期末自己株式数	28年3月期1Q	—株	27年3月期	—株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	28年3月期1Q	12,876,232株	27年3月期1Q	10,742,635株

(注) 平成26年6月28日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っておりますが、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して株式数を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
第1四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間において、当社は自ら構築した、アプタマー創薬に関する総合的な技術や知識、経験、ノウハウ等からなる、創薬プラットフォーム「RiboARTシステム」を活用して、各パイプラインの研究開発の進捗を図るとともに、その新規用途や新規テーマの探索に努めてまいりました。

自社創薬では、前第1四半期累計期間にRBM004（抗NGFアプタマー）を藤本製薬株式会社にライセンス・アウトし、ライセンス収入を計上しましたが、それに次ぐライセンス・アウト候補品目として、RBM006（抗ATXアプタマー）及びRBM007（抗FGF2アプタマー）を選定しております。

RBM006が狙う最初の適応疾患は、治療満足度が低く重篤な疾患である特発性肺線維症ですが、その価値の最大化を図るべく、強皮症での開発も進めてまいりました。当社では、強皮症に関し動物を用いた薬効試験で効果を確認し、特発性肺線維症と併せてヒトでの臨床試験に入る前に不可欠なGLP試験の実施への目途がたちました。なお、本テーマについては、欧米の複数の大手製薬企業との間で、ライセンス・アウトを含む提携に向けた交渉を積極的に進めております。

RBM007の適応疾患は、難治性の骨疾患や抗体で十分な効果の得られない関節疾患、癌性疼痛（特に癌の骨転移に伴うもの）、及び高齢者の失明の原因ともなりうる加齢黄斑変性症等を想定しております。本テーマは適応疾患が多岐にわたるため、領域ごとに提携先を選定することとし、国内外の製薬企業とライセンス・アウトに向けた交渉を積極的に進めております。

共同研究では、大塚製薬株式会社との免疫・炎症性疾患などを対象としたRBM001に係る共同研究契約の期間が平成27年6月30日に満了しましたが、当該契約について契約期間を平成27年12月31日まで6ヶ月間延長いたしました。これにより、当事業年度中の同テーマの更なる進展を予定しております。また、同社との血液疾患を対象としたRBM002及び線維症を対象としたRBM003に係る共同研究についても引き続き実施しております。なお、RBM003に係る物質特許が、当第1四半期累計期間に米国で成立いたしました。

また、大正製薬株式会社との共同研究も順調に推移しております。

なお、自社創薬及び共同研究のパイプラインのうち、基礎・探索研究段階を終え前臨床試験に進んでいるプロジェクトは下記のとおりです。

研究開発形態	Project No.	標的名	開発中の適応症	基礎・探索研究	前臨床試験			臨床試験	備考 (追加可能な適応疾患等)
					<i>in vitro</i> <i>in vivo</i> 試験	予備毒性試験	GLP試験	第Ⅰ相	
共同研究開発	RBM001	Midkine	免疫・炎症性疾患						
共同研究開発	RBM002	非開示	血液疾患						
共同研究開発	RBM003	非開示	線維症						
ライセンス・アウト	RBM004	NGF	疼痛						
自社開発	RBM005	HMGB1	敗血症						循環器疾患 他
			線維症						
自社開発	RBM006	Autotaxin	肺線維症						疼痛 他
			強皮症						
自社開発	RBM007	FGF2	骨疾患						癌、リウマチ 他
			癌性疼痛						
			線維症						
			加齢黄斑変性症						
自社開発	RBM008	Periostin	糖尿病性網膜症						アトピー性皮膚炎 他

新規事業に関しては、IgGアプタマーのタンパク質精製のための実用化技術の開発に関し、中小企業庁からの東京都受託事業である平成26年度補正「ものづくり・商業・サービス革新補助金」への助成を申請し、1次公募申請案件の一つとして採択の通知を受けました。なお、本補助金に係る正式な交付決定の可否は、今後当社が提出する補助金交付申請書の審査を経て決定される予定です。

当社は、平成27年7月1日付で、事業開発部を設置いたしました。これにより、事業開発部を中心に各部門が連携を図り、製薬企業や医薬品関連企業との新たなアライアンスや、協力関係構築の一層の強化、及び新規事業プロジェクトを推進してまいります。

さらに、東京大学医科学研究所に平成24年4月に開設した社会連携講座（「RNA医科学」社会連携研究部門）との共同研究において、新規な技術開発を引き続き推進しております。

これらの結果、当第1四半期累計期間において、共同研究収入等による事業収益は39百万円（前年同四半期比87.8%減）、事業費用として研究開発費は86百万円、販売費及び一般管理費は61百万円計上し、営業損失は107百万円（前年同四半期は営業利益204百万円）となりました。

また、営業外収益として共同研究先からの核酸合成等に係る実費補填にあたる受取研究開発費6百万円を含む7百万円を計上したこと等により、経常損失は100百万円（前年同四半期は経常利益208百万円）、四半期純損失は100百万円（前年同四半期は四半期純利益196百万円）となりました。

なお、当社は創薬事業及びこれに付随する事業を行う単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

（2）財政状態に関する説明

① 資産の部

当第1四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べて108百万円減少し、3,311百万円となりました。これは、有価証券が1,599百万円、前払費用が17百万円増加した一方で、現金及び預金が1,709百万円、売掛金が16百万円減少したこと等によるものです。なお、当第1四半期会計期間末において保有している有価証券は、保有する資金を、研究開発への充当期まで、適切な格付けを得た安全性の高い金融商品で運用することを目的として取得したものです。

② 負債の部

当第1四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べて37百万円減少し、119百万円となりました。これは、未払金が18百万円増加した一方で、前受金が27百万円、未払法人税等が7百万円、その他が21百万円減少したこと等によるものです。

③ 純資産の部

当第1四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べて71百万円減少し、3,191百万円となりました。これは、資本金及び資本剰余金がそれぞれ15百万円増加した一方で、利益剰余金が100百万円減少したこと等によるものです。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、アプタマー創薬技術のプラットフォームである「RiboART システム」をベースとして、新規のアプタマー医薬の開発に取り組んでおります。

業績予想の策定にあたっては、自社で創製した開発候補アプタマーを製薬企業にライセンス・アウトし、そのライセンス収入を見込む「自社創薬」と、安定的な共同研究収入を一定期間期待できる製薬企業との「共同研究」の二つをバランス良く組合せ、持続的な収益向上を図ることを基本方針としております。

事業収益は、各品目の開発や提携交渉の進捗状況等を勘案して予測しております。即ち、ライセンス関連では平成28年3月期中の契約の締結とそれに伴う収入金額を、共同研究等関連では平成28年3月期中に見込まれる業務量や契約内容に従って計算した収入金額及びその計上時期をそれぞれ予測し、事業収益を策定しております。特に、ライセンスの対価やその支払条件等は、ライセンス先との交渉により、個々の案件ごとに決定されます。その結果、合意した対価の額や内容、収益を計上する時期等が当社の計画と大きく異なる可能性があり、不確定要素を完全に払拭することが難しいと考えております。

こうした点を考慮し、平成28年3月期の業績予想をレンジ形式にて開示しております。

当社としては、レンジの上限数値は目指すべき業績と認識しており、この目標の達成に向けて、すでに複数の製薬企業と交渉を開始しております。この上限値には平成28年3月期中の2品目（1品は自社創薬テーマ、他の1品は共同研究テーマ）のライセンス・アウトを見込んでおります。しかし、期中にライセンスに関する契約が全く締

結されなかった場合、共同研究収入等だけでは事業の経費を賄えず、損失を計上する可能性があり、この場合の数値を業績の下限としております。

なお、平成28年3月期の業績予想につきましては、平成27年5月14日付の決算短信で公表しました通期の業績予想から変更ありません。

2. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成27年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,337,307	1,627,896
売掛金	31,636	15,483
有価証券	-	1,599,797
貯蔵品	1,060	2,453
前払費用	4,508	21,809
未収入金	12,368	7,136
その他	586	4,085
流動資産合計	3,387,469	3,278,663
固定資産		
有形固定資産	19,568	20,171
無形固定資産	264	234
投資その他の資産	12,282	12,202
固定資産合計	32,114	32,607
資産合計	3,419,584	3,311,270
負債の部		
流動負債		
未払金	13,977	32,375
未払費用	7,425	7,715
未払法人税等	11,199	4,073
前受金	99,000	72,000
その他	25,005	3,352
流動負債合計	156,607	119,517
負債合計	156,607	119,517
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,871,591	2,886,830
新株式申込証拠金	900	-
資本剰余金	2,844,591	2,859,830
利益剰余金	△2,454,105	△2,554,907
株主資本合計	3,262,976	3,191,752
純資産合計	3,262,976	3,191,752
負債純資産合計	3,419,584	3,311,270

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
事業収益	321,728	39,336
事業費用		
研究開発費	77,696	86,003
販売費及び一般管理費	39,317	61,010
事業費用合計	117,013	147,013
営業利益又は営業損失(△)	204,715	△107,676
営業外収益		
受取研究開発費	7,357	6,553
その他	12	996
営業外収益合計	7,370	7,550
営業外費用		
株式交付費	1,124	373
株式公開費用	2,000	-
その他	416	-
営業外費用合計	3,540	373
経常利益又は経常損失(△)	208,545	△100,499
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	208,545	△100,499
法人税等	11,848	302
四半期純利益又は四半期純損失(△)	196,697	△100,801

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。